

■目次

- ・第20回大会準備状況報告
- ・理事会報告
- ・年報編集委員会報告
- ・広報委員会報告
- ・企画研究WG報告
- ・楨本記念賞WG報告
- ・2018年度高良記念研究助成募集
- ・選挙管理委員会からのお知らせ
- ・支部活動報告
(北海道支部・東日本支部・関西支部・九州支部)
- ・《追悼》高良和武先生の思い出
- ・文部科学省「大学等におけるインターンシップ表彰」
における最優秀賞の受賞
- ・事務局からのお知らせ
- ・会員情報

第20回大会準備状況報告

日本インターンシップ学会にとりまして節目となる第20回大会は、関西支部が担当させていただく順番です。関西支部では、支部運営委員を中心に第20回大会準備委員会を立ち上げて何度も会合を開き、廣瀬幸弘大会準備委員長（前・立命館大学）のご了解の下、以下の大枠を決定しました。

- ①開催日程は2019年8月31日(土)～9月1日(日)、
- ②大会会場は立命館大学・大阪いばらきキャンパス
(後述のとおり②だけ変更)、
- ③テーマは「グローバルな産学連携」(基調講演やシンポジウムもこれに関連したもの)
- ④今年逝去された高良先生の追悼行事を実施、
- ⑤関西支部全体で大会開催校を支える。

上記⑤に基づき、役割分担を決めて大会準備を進めてきましたが、3月後半に大きな情勢変化があり、上記②の実現が難しくなりました。そこで、4月下旬の大会準備委員会で、②だけを緊急避難的に近畿大学・本部キャンパスに変更することを決めました(第16回大会の会場<Eキャンパス>とは道路を挟んだ隣のキャンパス)。併せて、開催校に所属する私が大会準備委員長代行を務めます。これに対し、上記①と③～⑤については変更ありませんし、大会準備委員長も引き続き廣瀬先生です。また、上記③(廣瀬先生のご発案)の関連で、廣瀬先生にシンポジウムのパネリストとしてご出席いただくことを検討中です。

もっとも、急な会場変更のため、参加者にご不便

なこともあります。主会場は新しい建物(2017年春開設の「アカデミックシアター」)の大教室を2日も予約しましたが、2日目の研究発表会では、同じ建物内の小教室を使えません(同日程で開催される別の学会が予約済)。そこで、別の新しい建物(国際学部の新校舎<前回は未完成>)の小教室を使いません。研究発表にご出席の皆様には心苦しいのですが、ご寛恕いただければ幸いです。

懇親会の会場は、第16回大会と別の施設(アカデミックシアター内の店舗<近大マグロを少量ながら提供可能>)を予約しました。ただ、急な会場変更ですので、余興(前回は吹奏楽部の生演奏)やエクスカッション(前回は「司馬遼太郎記念館」or「ならまち」ご案内)を準備する余裕がありません。この点も、ご理解賜れば幸いです。

新大阪駅のご利用者には朗報があります。大会webサイト(<http://jsi2019kindai.net>)のメニュー「アクセス」に掲載のとおり、新大阪駅まで本年3月に延伸したJRおおさか東線ですと1度の乗換(俊徳道駅)だけで会場最寄りの近鉄大阪線・長瀬駅に到着します。

上記の大会webサイト(ご参加申し込み欄や研究発表の募集も掲載)をご活用いただき、多くの皆様が第20回大会にご参加されますことを、心よりお待ちしております。

(第20回大会準備委員長代行 安孫子勇一・
近畿大学)

理事会報告

2018年度第3回理事会

(12月8日 於：文化学園大学)

(1) 入退会申請について

事務局長より入会申請について、個人会員6名、法人団体会員1件の申請があり、申請理由書等の確認の上全て承認された。退会の申請については、なしの旨報告された。

(2) 選挙管理委員の選出について

事務局長より、2019-2020年度新理事選挙及び新会長選出スケジュール案が報告された。併せて、選挙管理委員会について説明がなされた。

(3) 各種委員会・ワーキンググループ・支部報告

各種委員会・ワーキンググループ・支部報告を代表する理事より、それぞれの活動に関する報告がなされた。

(4) 学会20周年記念事業について

折戸会長より、学会設立20周年の記念事業に関する委員会設立および20年史作成の報告がなされた。併せて、委員会メンバーについては次回理事会までに確定する旨報告がなされた。

(5) 事務局報告

事務局長より、12月に予定している2018年度ニュースレター第1号の会員への発送についての報告がなされた。

2018年度第4回理事会

(3月13日 於：久留米大学福岡サテライト)

(1) 入退会申請について

事務局長より入会申請について、個人会員4名、学生会員1名、法人・団体会員1件の申請があり、申請理由書等を確認の上全て承認された。退会の申請については、個人会員8名、学生会員1名、法人・団体会員1件の申請があり、全て承認された。

(2) 会則改訂について

事務局長より、各種表彰などのワーキンググループ統合案および支部活動費補助規程に関する会則改訂案が提示された。併せて折戸会長から、改訂案については次回理事会で審議する旨の報告がなされた。

(3) 選挙管理委員の選出について

事務局長より、選挙管理委員会のメンバー構成、ならびに資料に基づき選挙スケジュールが示された。

(4) 各種委員会・ワーキンググループ・支部報告

各種委員会・ワーキンググループ・支部報告を代表する理事より、それぞれの活動に関する報告がなされた。

(5) 学会20周年記念事業について

折戸会長より、20周年記念事業の委員会構成メンバーに関する説明がなされた。また、事業の一環である20周年史の説明があり、それを受けて各支部のこれまでの活動報告について、折戸会長より次回6月実施理事会までの作成の依頼があった。

(6) 第20回全国大会について

廣瀬理事より、8月31日・9月1日の両日に開催される第20回全国大会の概要説明がなされた。関連して、大会準備委員会の活動および今後のスケジュールの説明がなされた。

なお、各理事会で行われたその他の委員会・WG、支部の報告の詳細につきましては、本NEWS LETTERの委員会・WG・支部の各報告記事をご参照願います。(事務局)

年報編集委員会報告

『インターンシップ研究年報』第21号の編集・発行にかかる不手際のお詫び

『インターンシップ研究年報』第21号につきましては、会員の皆様のお手元に実際にお届けできる時期が例年に比べ大幅に遅れましたことを、まずは何より深くお詫び申し上げます。「I 研究論文の部」では、計8本の投稿に対し、最終的に研究ノートとして2本が掲載の運びとなりました。後述のとおり、その編集工程におきましては不手際も多く、ご投稿者にはその都度ご心配・ご迷惑をおかけいたしました。今号掲載のご著者におかれましては、当委員会からのコメントや具体的な修正指摘事項に丁寧にご対応くださいましたことに、厚く感謝・御礼申し上げます。掲載本数こそやや少なくはなりましたが、会員の皆様の貴重な研究成果について、学会内のピア・レビューを経てこうして学会内外に広く発信できますことを、一会員として心より嬉しく思います。

最後に、あらためてのお詫びがございまして。今号におきましては、発行が大幅に遅れたことの問題もさることながら、その前段において、実際にご投稿くださった当該会員の皆様に対して、査読結果のお

知らせが例年に比べ大幅に遅れるという事態が発生いたしました。また、「Ⅱ 学会大会の部」の編集作業におきましても、第 18 回大会関係の皆様にご迷惑をおかけいたしました。それら不手際の数々を痛切に反省いたし、衷心よりお詫び申し上げます。次号となる第 22 号では同じ轍を踏まぬよう、目下、委員長以下の組織体制の変更、ならびに編集体制の改善をはかりながら、インターンシップの専門学会による刊行物としての価値をより感じていただける年報をお届けできるよう、努力してまいります。

(年報編集委員会委員長 (第 21 号担当)
長尾博暢・鳥取大学)

広報委員会報告

広報委員会では本学会に寄せられた研究会やセミナー開催案内および教員公募等、会員の皆さまにとって有益な情報を学会 web サイトに掲載するほか、随時、メルマガで配信しております。本学会に関連する情報がありましたら広報委員会までメールでお寄せください (jsi.prc@gmail.com)。なお、最終的な掲載可否は広報委員会で検討させていただきますのでご了承ください。

また、アドレスを変更された際には学会 web サイトより会員情報の更新をお願いいたします。

(広報委員会委員長 高橋秀幸・
北海道武蔵女子短期大学)

企画研究 WG 報告

企画 WG の目的は、さまざまな学術的・実践的な研究活動を促進し、学会として必要とされる研究活動を企画していくことです。昨年 11 月に九州支部と高良記念研究助成委員会の共催で「研究スタートアップ支援セミナー」を開催し、その中で科研改革 2018 を担当された吉本圭一会員からインターンシップは何学で科研申請をするのか、学問分野の分野分類に関する問題提起がなされました。また、日々の実践活動を研究として発表する場合、ルール違反が何かを知ることができて良かったという声も参加者から寄せられました。このルールとは、研究者倫理のことです。(詳しくは、日本学術振興会の「研究公正」web サイトに掲載されている「科学の健全な発展のために-誠実な科学者の心得-」(グリーンブッ

ク) や e-learning などの教材を参照ください。

<https://www.jsps.go.jp/j-kousei/rinri.html>) 例えば、大会研究発表申込み時のタイトルを発表当日に変更する、講演会で入手したスライド資料や図表を引用先がわかる出典を記載せずに使用するなどです。これらは、近年の大会発表で実際に起きているルール違反の事例です。

本会はインターンシップや職業統合的学習 (Work Integrated Learning) などを対象とする実践と学術が往還する学際的 (interdisciplinary) な学会です。よりよい研究活動の発展のために、研究発表申込みの際は、今一度、発表前に研究者倫理をご確認いただきますようお願いいたします。

また、「研究スタートアップ支援セミナー」の第 2 弾も計画中です。会員の皆様の研究活性化につながるような活動を検討しておりますので、ご意見、ご提案があればどうぞよろしくお願いいたします。

(企画研究 WG 委員長 江藤 智佐子・久留米大学)

楨本記念賞 WG 報告

第 3 回楨本記念賞ですが、今年の 8 月 31 日に開催される第 20 回大会で、表彰を実施する予定となっています。

選考対象は、大学・短大、高専、専門・専修学校、中学校・高等学校等の取組みで、2017 年 6 月から 2018 年 5 月末迄の 2 年間に各支部研究会ないし学会大会で発表された事例が対象になります。選考のスケジュールは、各支部から 4 件を 6 月理事会において推薦いただき、その後、ワーキンググループで審査を進めていきたいと考えております。評価項目は、「制度・組織」「運用」、「内容・シラバス」、「期間」、「受入先との連携」、「醸成される力」、「受入先からの評価」、「受講生の評価」の 8 項目になります。審査方法は、評価項目の「運用」、「期間」を除く 6 項目を、各 5 点満点として、全体として 30 点満点で評価を行い、最も合計点が高いものを「最も秀逸」、2 から 5 位までを「秀逸」なインターンシップとして選定する予定です。

現在、インターンシップ推進の流れのなかで、教育的効果の高い、様々なインターンシップが全国で取り組まれています。本学会としても、今回の表彰で他のモデルとなる、秀逸な事例を表彰できればと

考えております。

なお、榎本記念賞の詳細に関しては、学会 web サイトの「榎本記念賞」をご確認ください。

(<http://www.js-internship.jp/makimotokinen.html>)

(榎本記念賞 WG 委員長 松坂暢浩・山形大学)

2019 年度（第 12 回）高良記念研究助成募集について

「高良記念研究助成」制度は、高良和武名誉会長から学会へご寄付いただいた基金をもとに、2007 年度よりインターンシップに係る研究・実践活動の発展・普及のため、特に若手研究者の育成や会員相互の研究交流の促進を図ることを目的として、優れた研究課題へ研究助成を行うものです。今回も昨年と同様に委員会を立ち上げることを予定しております。募集要項、申請書式等、申請に係る書類は学会 web サイトに掲載し、各会員に郵送で送付する予定です。

2019 年度の研究助成につきましても、会員の皆様には是非ご応募いただきますようお願いいたします。申込締切り後、採否を委員会において審査し、理事会で決定し、研究助成対象者を大会の総会席上にて発表する予定です。助成期間は 1 年となります。研究成果は次年度の大会にて発表いただいた後、研究年報に論文を投稿していただきます。国内外における多様な視点からのインターンシップ研究、その実践活動の展開に関する研究など幅広い内容の応募をお待ちしております。

(事務局)

選挙管理委員会からのお知らせ

2019-2020 年度の理事選挙の実施にあたり、理事会より選挙管理委員会委員として高橋修一郎会員、安田麻季代会員、森谷一経会員の 3 名が委嘱され、選挙管理委員長に森谷一経が選任されました。

まず、理事選挙につきましては選挙規定に基づき 2019 年 3 月末時点で 2018 年度会費を納入している個人会員を被選挙人とし 169 名を確定しました。なお、今回の理事選挙では「役員任期・再任回数」の改定にかかる経過規定が 1 名の会員に適用され、被選挙人名簿より外れております。また、選挙人は被選挙人に加え法人・団体会員も加え 211 名で、4 月 27 日付で投票用紙を郵送いたしました。5 月 23 日の締切日までに投票を受け付けることになってお

ります。

5 月 6 日には高橋会員と森谷が、選挙管理委員会を設置している北海道文教大学キャリア教育センター一室にて、開票準備の作業をいたしました。また、5 月 25 日に同上北海道文教大学キャリア教育センター一室にて、高橋委員と森谷の 2 名が開封・開票作業を実施する運びとなっております。

原稿執筆の現時点においては、投票用紙の受け付けをしているところです。15 名の新理事候補が確定し次第、新理事候補宛てに会長選挙の投票用紙を郵送する予定です。関係各位におかれましては、会長選挙につきましても引き続きご協力くださいますようお願いいたします。なお、会長選挙は 6 月 23 日に理事選挙と同様、北海道文教大学キャリア教育センター一室にて安田委員と森谷が開票作業を行い、会長を選出する予定です。今後も委員一同、厳正なる選挙を執り行うように責任をもって任務にあたってまいりますので、よろしくお願いいたします。

(選挙管理委員会委員長 森谷一経・
北海道文教大学)

支部活動報告

【北海道支部】

北海道支部 2018 年度総会・第 1 回研究会を開催

2019 年 3 月 11 日（月）に、2018 年度北海道支部総会および第 1 回研究会を、札幌国際大学経済センターキャンパスにて開催いたしました。本会には 11 名の方にご参加いただきました。

今年度より高橋秀幸支部長（北海道武蔵女子短期大学）をはじめとする新体制に移行し、初めての総会・研究会となりました。支部会員数は多くはありませんが、新入会員も迎えており、支部の活性化をはかることができるよう取り組んでおります。

総会後に行われた研究会では、2 名の事例報告者をお招きし、興味深い実践報告をいただいた後、フロアとのディスカッションを行いました。今回の報告者と題目は以下の通りです。

- ① 諸橋 宏明 氏（北海道教育庁学校教育局）「北海道教育委員会における地域と高校が連携した取組」
- ② 中田 隆太 氏（NPO 法人ハタモク北海道代表理事）「ハタモク北海道での実践について」

諸橋氏からは、北海道で実施された小中高一貫で

行われるキャリア教育活動の取組にて、地域と学校が密接に関わりながら、実践型の教育を実現している事例を、また中田氏からは学生と社会人がいっしょに働く意味・目的（ハタモク）を考える場を提供する活動についてのご報告をいただきました。

どちらの活動も大学での学修とは異なったアプローチでありながらも、社会と教育を繋げるという点はインターンシップに通ずる活動であり、フロアからも積極的に質問の声があがりました。大学正課でのインターンシップの在り方も振り返りながら、今後のインターンシップ研究に寄与する意義のある研究会となりました。

また2019年3月8日（土）には、「キャリアデザインライブ」を日本キャリアデザイン学会ほか4学会の北海道支部と共催いたしました。今後も他学会との連携・協力を進め、本学会が得意とする分野での発表・提言を進めて参ります。

北海道支部 2018年度第2回研究会のお知らせ

2019年6月16日（日）に第2回研究会を札幌国際大学にて開催する予定です。今回は高等学校教員を招き、インターンシップの高大接続を検討いたします。みなさまのご参加をお待ちしております。

（北海道支部事務局長・広報担当 小林 純・札幌国際大学短期大学部）

【東日本支部】

2018年度 第2回支部研究会・役員会の開催

2018年12月1日、宮田篤東日本支部運営委員のご尽力のもと、青森中央短期大学において、第2回研究会・役員会を開催しました。

「地方都市における共育型インターンシップの可能性」をテーマとし、曾我亨氏（弘前大学副理事人文社会科学部教授）、小寺将太氏（一般社団法人 tsumugu 代表理事 弘前大学非常勤講師）による基調講演の後、共育型インターンシップの参加学生である春日一心氏（弘前大学農学生命科学部2年）を交えたバズ・セッションがおこなわれ、グループごとに活発な議論が展開されました。

加えて、野村尚克会員（株式会社 MOVER & COMPANY）、山口圭介・川崎登志喜会員（玉川大学）、篠崎雅春会員（東京未来大学）による3件の研究が

発表されるなど、非常に充実した研究大会となりました。

また、役員会では、支部研究会謝金等の扱いや支部独自の研究助成など、支部活動における具体的な課題について議論しました。

2018年度 第3回支部研究会・役員会の開催

第3回研究会・役員会は、講師依頼等の関係から、5月18日の開催となりました。詳細は、次回のニュースレターでご報告させていただきます。

支部活動の更なる充実に向けて

古閑博美支部長、牛山佳菜代事務局長はじめとする新たな役員体制は2年目を迎え、支部活動の更なる充実が図られつつあります。東日本支部の会員の皆さまをはじめ、全国の会員の皆さまのますますのお力添えをお願い申し上げますとともに、支部研究会へのご参加を心よりお待ちしております。

（東日本支部運営委員 山口圭介・玉川大学）

【関西支部】

第20回大会の会場を近畿大学に変更します

関西支部は、廣瀬幸弘支部長（前・立命館大学）の下、第20回大会を立命館大学・大阪いばらきキャンパスで2019年8月31日（土）～9月1日（日）に開催するために、大会準備委員会を立ち上げ、役割分担を決めて準備を進めてきました。しかしながら、3月後半に大きな情勢変化があり、4月下旬の大会準備委員会が、会場を緊急避難的に近畿大学・本部キャンパスに変更することを決めました。本部理事会のご了承を得た後、広報委員会のご尽力で、メールマガジンと学会webサイトを通じて会員の皆様に会場変更をお知らせしたところです。今回変更するのは会場だけで、日程、テーマ「グローバルな産学連携」、大会プログラムなどは当初予定通りです。廣瀬支部長・大会準備委員長も留任されますが、私（前・副支部長）が関西支部長代行・大会準備委員長代行を務めます。

なお、第16回大会と同じ近畿大学での開催（今回は隣のEキャンパス）ですが、大会と懇親会の会場として、その後に竣工した新しい建物を使います。また、懇親会では、第16回大会で提供できなかった

近大マグロを、些少ではありますが、提供できます。

すでに、大会用 web サイト「<http://jsi2019kindai.net>」を立ち上げています。研究発表のご応募や、大会のお申し込みなどは上記の web サイトからできますので、ご活用いただければ幸いです。多くの皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

(関西支部長代行 安孫子勇一・近畿大学)

【九州支部】

九州支部第 23 回研究会を開催しました

去る平成 31 年 3 月 9 日 (土) に「グローバルに往還するインターンシップ」というテーマで第 23 回九州支部研究会を開催しました。多様な文化の中でのインターンシップはどのような課題があり、どのような教育効果が期待できるのか。今回は、国際インターンシップのコーディネート、受け入れ先企業、学生を送り出す教育機関など 5 名の事例報告が行われ、その後、参加者の皆様と議論を深めました。

まず、吉本圭一九州支部長から趣旨説明がなされ、崔 耿美会員 (九州インターンシップ推進協議会) から、韓国における国際インターンシップの現状や今後の課題について、元 美和会員 (地域企業連合会九州連携機構) からは、釜慶大学における日本企業へのインターンシップの現状をコーディネートの立場から事例報告がなされました。次に、受入企業として深野慧甫氏 (株式会社グルーヴノーツ) から、留学生を対象とした約 2 ヶ月の課題解決型インターンシップの事例と成果が報告されました。さらに、海外インターンシップに送り出す教育機関として見館好隆会員 (北九州市立大学) から、精緻に設計された PBL 型インターンシップの事例報告がなされ、松井かおり氏 (立命館アジア太平洋大学) からは、留学生インターンシップの現状と今後のカリキュラム化について報告がなされました。報告後は総括討論に入り、成功裡に導く共通条件として環境適応力やタフさ、加えて関心度の高さや当事者意識を持つことが指摘されました。当日は非会員も含め 18 名の参加者がありました。

(九州支部広報担当 小嶋紀博・雇用事情研究所)

《追悼》高良和武先生の思い出

日本インターンシップ学会初代会長の高良和武先生が、平成最後となった今年 1 月 30 日、97 歳でご逝去されました。高良先生は、1921 年鹿児島に生まれ、九州帝国大学理学部物理学科を卒業され、ご専門の放射光物理学の領域を探究されながら九州大学工学部、東京大学工学部で教鞭をとられ、1984 年に退官、名誉教授とされました。

政府の三省合意による政策的なインターンシップ制度化をめぐる検討過程で、その後副会長として学会を支えていく金田昌一、田村紀雄、田中宣秀の各先生方と出会い勉強会を重ね、インターンシップの実践を通じて産学官や地域コミュニティ等を巻き込んだ教育体制を作るための研究交流の場として、1999 年 7 月に本学会を設立されました。高良先生の研究キャリアをめぐる自伝的著書『未知への旅』(STEP、2002 年) では、東大の紛争期の総長特別補佐時代の経験を踏まえて、ある種タブーとなっていた産学連携による教育の復興を模索しインターンシップに辿りついたことなどをインタビュー取材の中で話されています。

普段の先生は、にこやかで物静かな方でした。先生のご専門である学術領域での卓越した経験について知る者がおらず、そうした話ができず物足りなかったかもしれません。初代会長として、様々なインターンシップの研究報告に熱心に聞き入り、特に海外の事例については豊富な実体験をもとに議論に熱く参加いただきました。私自身は、学会発足 3 年目の 2002 年から学会参加し、そこから高良先生とのお付き合いが始まりました。会員の誰に対しても穏やかに語りかけられる高良先生でしたが、特に私に対しては、鹿児島居住という同郷、九州大学や東京大学という同窓、同じ職場の経験などからの親近感もあったのか、色々引き立てて頂いたように思います。父親よりも上の世代の先生ですが、自然体で関わりを持たせて頂きました。日欧大卒者研究、特にドイツとの比較などを報告する折には、先生から、ご自身の若い時代のドイツ留学経験を踏まえた質問を頂き、会場はリアリティのある深い比較考察の場となりました。さらに、その後の懇親会では隣席に指名されて、欧米のインターンシップやその現場について、ビール片手に和やかな探究が続くのが常で

した。

2000年代前半までの学会運営は、事務局や組織体制が確立していない時代でしたので、物理学での大きな伝統学会経験などと比べて、色々もどかしい思いを抱いておられたのではないかと思います。茗荷谷の明治大学のサロンの一角を借りて理事会を行うのが定例となっていました。先生は会議の場や斜めの角あたりに座られ議事の進行を見守りながら、しかし時々にはっきりとご意見を述べ、運営についての軌道修正などを導いておられました。

その運営方針として、研究活動を活発にし、全国に広げるというご意向が明確にありました。九州にいる私も、インターシップは現場からの発信し全国関係者が交流することが大切と考え、2004年に関東地区以外での最初の研究会を長崎で開催しました。このときに大変喜んで頂き、榎本淳子氏や亀野淳氏も含めて、関西、九州、北海道にぜひ支部をつくりなさいと勧められました。私はその後2007年から田村第二代会長を引きついで会長として学会運営にあたることになりましたが、学会支部研究会と全国の理事会の支部での開催を連動させるという仕組みをつくり、支部体制を確立できたのも、高良先生の教えによるものでした。

また、若い人を応援したいという気持ちの強い先生でした。学会員の皆さんには、先生のお名前は「高良記念研究助成」という研究助成の冠でよくご存じだと思います。会長を退かれるときに、先生から貴重なご寄付を頂き、その使途については普段から先生のお考えを伺っていましたので、当時の事務局長として迷わず若手研究者の育成のための制度を提案、設置させて頂きました。2007年度の第8回大会で、最初の研究助成対象として北海道大学大学院の江口彰さんらが決まり、大会の総会で賞状を渡す時には、高齢のお身体を厭わず北海道までお出で頂きました。賞状を読み上げながら大変にお喜び頂いたことをつい先日のように思い出します。スタート時には、厳しい台所事情から、先生の寄付でどのくらいの期間支援していくことができるかいろいろシミュレーションしてスタートしましたが、その後学会は一定規模まで成長し、会計も健全化することができましたので、2018年度の第12回助成まで合計20名の若手研究者の育成支援をしていく体制を確立することが

できました。この高良記念研究助成の次なる課題は、そうした研究助成を受けた若手が学会を支える新たな力となっていくことであり、会員の皆さまとともに先生のご遺志をさらに大きく実現していきたいと思っています。

思い出は尽きませんが、あらためて、学会の創設から組織確立までの、まさに「未知への旅」の一端でのご尽力に厚く感謝申し上げますとともに、謹んで先生の御霊のご平安をお祈りいたします。

(九州大学主幹教授 第三代会長 吉本 圭一)

文部科学省「大学等におけるインターンシップ表彰」における最優秀賞の受賞

平成29年度文部科学省「大学等におけるインターンシップ表彰」において、本学会の松坂暢浩会員(山形大学)と山本美奈子会員(山形大学)が取り組むインターンシップが文部科学大臣表彰の「最優秀賞」を受賞いたしました。文部科学省のインターンシップ届出制度や表彰制度の詳細については、以下の文部科学省のwebサイトをご覧ください。

・大学等におけるインターンシップの届出制度の公表について

http://www.mext.go.jp/b_menu/internship/1401051.htm

・大学等におけるインターンシップ表彰および受賞大学等取組概要

http://www.mext.go.jp/b_menu/internship/1408338.htm

(事務局)

事務局からのお知らせ

会員情報変更および確認の連絡について

4月以降に新天地で活動を開始された会員も多いことと存じます。学会では2016年6月より学会運営業務の一部を株式会社ガリレオへ外部委託すると共に、会員情報管理システム(SOLTI)を導入することになりました。同封の「会員原簿登録情報」の確認をお願いいたします。システムを通じ、会員原簿登録情報の更新・確認、会費納付状況や会誌発送状況の確認等の手続きがオンラインで可能となります。修正が必要な場合は、会員情報管理システム(SOLTI)にログインして修正を行ってください。

会費納入のお願い

本学会は 2011 年度より事業年度及び会計年度が 7 月から翌年 6 月までに変更になっております。ついては、2019 年度会費については、別途納入依頼をお送りさせていただきます。

なお、2018 年度の会費未納の方は、郵便振替用紙かゆうちょ銀行からの振込(ゆうちょ銀行に口座をお持ちの方は手数料が無料です)で、下記振込先までお送り下さいますようお願いいたします。なお、振込手数料は各自でご負担願います。

【会費振込口座】

郵便口座 0 2 7 5 0 - 1 - 1 0 8 4 1 9

口座名義 (「加入者名」の欄)

：日本インターンシップ学会

ゆうちょ銀行

店番：2 7 9 (当座) 口座番号：1 0 8 4 1 9

口座名義：日本インターンシップ学会

*振込にかかる手数料等は各自でご負担ください。

(事務局)

日本インターンシップ学会 NEWS LETTER 2018 No.2

発行日：2019 (令和元) 年 5 月 31 日

発行：日本インターンシップ学会 会長 折戸 晴雄

編集：日本インターンシップ学会広報委員会 委員長 高橋 秀幸

印刷：日本インターンシップ学会事務局 事務局長 根木 良友

〒194-8610 東京都町田市玉川学園 6-1-1

玉川大学キャリアセンター内

E-mail : jsi-sec@js-internship.jp

Tel : 042-739-8915 Fax : 042-739-8921